

4 外部評価

令和5年度（令和4年度対象）教育委員会事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価にあたって、客観性を確保するため、点検評価の方法や結果などについて学識経験を有する者の意見を聴きました。

(1) 学識経験者 (敬称略)

氏名	所属等
佐藤 淳	伊達市校長会会長（伊達市立長和小学校長）
小田 尚記	伊達市PTA連合会会長（伊達市立光陵中学校PTA会長）
小林 浩路	伊達市社会教育委員会議議長

(2) 主な意見

令和5年度（令和4年度対象）教育委員会点検・評価報告に関する意見

佐藤 淳

1 教育委員会の活動状況

教育委員会会議については、定例会において今日的な教育課題の対応から伊達市の文化的な取組まで、様々な教育に関する案件について、各委員の高い関心と問題意識のもと検討・協議されている。

市内学校の行事への参加については、新型コロナウイルス感染症の影響により実施されなかったが、2校の学校訪問を実施することができたことは、本市における学校教育の現状を把握するうえで大変有意義であったと考える。次年度も学校訪問を継続するとともに、市内学校の行事への参加を期待する。その際には、各校のICT機器を活用した授業実践や研修会の視察についても検討願いたい。

2 「第2次伊達市教育振興基本計画」に基づく管理及び執行状況の評価

(1) 学校教育

① 社会を生き抜く力を育む教育の推進

伊達市学力テストの実施は、市内の児童生徒の学力の定着状況を把握するとともに、結果をもとに「学力・学習改善プラン」を作成することは、教員にとって授業改善の方向性を見定めるうえで大変有効である。小学校では、国語・算数の授業内容がよく分かるという回答した児童が大幅に下回っている。ここ3年間の新型コロナウイルス感染症により、通常の授業に様々な制限がかかっていたこと等も子どもたちの学習理解に影響していると思われる。体験して学ぶことが重要視されている小中学校にとって、ICTを効果的に活用するだけでなく、対話やグループ学習による

協働的な学びを積極的に取り入れるなど、学習指導の工夫・改善を図ることが必要である。また、各学校では、学力・学習プランを作成し取り組んでいるが、家庭での学習時間の確保や生活習慣の改善等についてより一層家庭との連携を深めるとともに、タブレット端末の家庭への持ち帰りを含め、有効活用しながら市全体としてより充実した取組となることを期待したい。

特別支援教育については、伊達市特別支援教育推進協議会を中心として、関係機関が連携し、児童生徒一人一人のニーズに応じた適切な就学の場の提供が図られている。さらに令和4年度から東小学校に「ことばの教室」が開設され、より一層充実した支援がなされている。また、児童生徒の学習支援や生活支援を行うために、各学校に特別支援教育支援員や介護員が配置され、配慮を要する児童生徒に手厚い支援がなされている。しかし、近年支援を必要とする児童生徒がより一層増えている。支援員配置が認められているにもかかわらず、配置がなされておらず十分な支援が受けられていない児童生徒もいる。一人一人が適切な支援が受けられるように確実な特別支援教育支援員、介護員の配置を期待する。「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の適切な活用は、校種間の連携において非常に大切である。児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じて適正な教育支援を行っていくことを期待する。

国際理解教育の推進については、ALTが複数配置されていることから、小中学生にとって生きた英語を学ぶことができるとともに、ALTと教員が連携して指導することで、指導方法の工夫改善を図ることができている。令和4年度は、大滝徳舜督学校を対象とした「イングリッシュキャンプ」と市内中学生を対象とした「だてっ子イングリッシュアドベンチャー」を開催することができ、外国の文化や習慣にも触れるなど国際理解教育の充実を図られた。今後も児童生徒の異文化理解と外国語への興味関心を高めるために、事業の継続を期待する。また、中学生の外国語の平均点が全国の平均を下回っていることから、小学校と中学校の外国語学習の系統性について検討するとともに、外国語の専科教員と中学校教員が連携して指導の在り方についても検討していくことが望まれる。

情報教育の充実については、小中学校に一人一台端末が配備されたことで、各学校でICTを効果的に活用した授業の充実が図られている。特に、学年・学級閉鎖などがあってもオンライン学習が実施できるようになり、「学びを止めない」教育環境が整備されたことはよかった。

その反面、児童生徒がICTの活用に慣れたことで、様々なトラブルに巻き込まれる可能性が高くなってきている。より一層情報モラルの指導の充実を図り、情報手段を適切に活用できるように、ネットトラブルの未然防止に向け指導の充実と継続を図ることが望まれる。プログラミング教育は、各教科においてまだまだ試行錯誤の段階である。一人一台端末を活用しながら、児童生徒が情報を科学的に理解し、実際にプログラミングに取り組むことで、情報の活用能力、プログラミング的思考などを育てていくことが期待される。

キャリア教育については、キャリアパスポートを導入したことで、発達段階に応じて主体的に将来への希望や目標をもたせ、自己実現に向けた体験活動の充実を図ることが位置づけられた。しかし、コロナ禍の影響により職場見学や職場体験を実施することにまだ制限があり、思うように充実を図ることができていない。それが今回の「将来の夢や目標をもっている」と回答した割合の低下につながっていると考えられる。令和5年度からは、職場見学や職場体験が再開されると思われるが、まだ制限がある職場については、オンラインを活用して職場の方とコミュニケーションを図るなど、キャリア教育の充実につながる工夫・改善に取り組むことが期待される。

環境教育の充実については、各教科、領域等を通して、環境教育全体計画に基づいて全ての学校が地域の特色を生かしながら取り組んでいる。今後は、ふるさと創生教育だて学の出組も絡めながら、児童生徒一人一人が地域の将来などを自らの課題としてとらえられるように、地域と連携した取組の充実が図られることを期待する。

安全・防災教育の充実についても、小中全ての学校で教育活動全体を通して取り組んでいる。特に有珠山噴火は、伊達市にとって危機意識をもって取り組む最優先の自然災害である。新型コロナウイルスの影響で充実した防災教室が実施できていないが、今後は各学校ともに危機管理マニュアルを適宜見直し、外部機関と連携した防災訓練を行うなど、より一層の防災教育の充実を図ることが望まれる。

②豊かな心を育む教育の推進

道徳教育の充実については、各学校で道徳教育推進教師を中心として「考え・議論する道徳」を実践するために、日々授業改善に取り組んでいる。令和4年度は、まだコロナ禍にあり、子供同士の対話を重視した授業が思うように実践できていなかったが、一人一台端末などを活用することで、新たな授業形態を模索し、児童生徒がよりよく生きるための道徳性が養われる道徳教育を推進している。昨年度よりも自己肯定感が高い割合となってきているのは、各学校で児童生徒に自信をつけさせるための学習や活動を重点的に行っているからである。「きまりを守る」ことについては昨年よりも下がってはいるが、学年の実態もあるので、引き続き、思いやりの心を育み、自己を深く見つめ、よりよく生きるための道徳性が養われる道徳教育の推進に努めていくことを期待する。

生徒指導・教育相談の充実については、各学校ともスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等を活用しながら、いじめや不登校の問題等について、積極的に取り組んでいる。不登校については、全国平均を下回ってはいるものの、中学校において増加していることが懸念材料である。関係機関と連携しながら、児童生徒や保護者との教育相談を密に行い、その子が抱えている問題や悩みに応じてどんな対応をとることがベストなのかを検討していくことが大切である。同時にその子

の学習機会を確保するためにもオンラインでの学習ができるように整備することが望まれる。いじめ問題については、未然防止・早期発見・早期対応が基本である。いじめは、「どんな所でも起きる」ことを念頭におき、「いじめは絶対に許されない」ということを児童生徒に浸透させ、伊達市いじめ基本方針に則った、市全体としての取組に期待する。

③健やかな体を育む教育の推進

体力・運動能力の向上について、小学校は体力合計点が昨年度よりもさらに全国平均を上回る結果となった。中学校は全国平均を下回ってはいるものの、昨年度よりも差が少なくなっている。各学校が体力テストを基に、児童生徒の課題を明確にした「体力向上プラン」を作成し、課題の改善に向けて指導の工夫や体力づくりの取組を行ったことが結果に表れている。特に小学校は昨年度から各学校とも縄跳び運動に力を入れたことが体力の向上につながったと思われる。引き続き全体の課題となっている持久力の改善を中心として、体力の向上を図る取組の工夫を期待する。

食育・健康教育の推進については、物価高騰等により地場産食材の提供が少なくなったことは仕方ない状況であった。令和5年度は給食費の増額を行っているので、できるだけ地場産食材を活用し、質の低下とならないように献立を作成してほしい。また、各小学校への栄養教諭の派遣は、児童に食育の重要性を理解させるためにも大切な事業である。今後もランチメールや献立メモの充実を図るとともに、日本の文化や季節の行事が感じられる献立づくりに取り組み、児童生徒の食への意識を高めていくことを期待する。

がん教育や薬物乱用防止教室・性に関する指導の実施については、各学校ともに外部講師を招聘し、実施することができていた。教育課程にも位置付けられ、講師を招聘していない学校でも、担任と養教が連携しながら工夫して指導しており、健康教育の推進は測られている。今後はさらなる外部講師の招聘による実践を期待したい。

④地域と共にある学校づくりの推進

地域総がかりの教育の推進については、新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなったことから、各学校で学校運営協議会を再開し、地域の方と学校運営や教育活動の協力等について熟議することができた。また、学校運営協議会に指導室指導員も同席することによって、教育委員会との情報共有が容易になったことは評価できる。また、学校運営協議会委員研修会の開催は、初めて委員となった方にとって、コミュニティ・スクールの仕組みについて理解が容易になるとともに、他校での活動の様子も分かるため、より一層の充実につながる。今後も継続した取組を期待する。

ふるさと創生教育の推進については、各学校とも「だて学」コンセプト・フロー

を基にしながら、教育課程に位置付け、地域の特色を活かして伊達市の歴史的風土、伝統、文化などについて学ぶ取組を進めている。発達段階に応じた学習プログラムを確立するとともに、将来地域のために行動できる児童生徒を育成するために、より一層の学習内容の充実に期待する。

異校種間連携・接続の推進については、コロナ禍ではあったが、幼保小、小中、中高の交流を可能な範囲で実施することができた。児童生徒がスムーズに次の進学先に慣れるためには、事前の交流は欠かせない取組である。また、教員同士も連携することで、学習や生活のきまり、指導方法の違いを少なくし、円滑な接続を図ることが大切である。より一層の連携を図ることを期待する。

幼児教育の充実にについては、コロナ禍の影響により、計画通りの実施ができていない学校もあった。各学校とも、「アプローチカリキュラム」「スタートカリキュラム」の見直しを図るとともに、令和5年度には、就学前の幼児が安心して小学校に入学し、学校生活が送れるように、交流事業を再開し、連携を深めることを期待する。

教職員の資質・能力の向上については、校長会が主体となって教育実践交流・研修会を実施した。一人一台端末の導入によって、児童生徒にいかにか効果的に活用すればよいかを実践を基に交流することで、その後の授業への活用につながった。教職員の専門性や資質・能力の向上をより一層図るためにも、教育委員会が主体となった外部講師による研修会も実施されることを期待する。

⑤信頼される教育環境の整備

学校施設・設備の充実にについては、国の補正予算の活用により、伊達小の校舎改築、伊達中暖房設備改修、伊達西小校舎暖房設備設計等が行われ、計画的に教育環境の整備が行われている。令和5年度の長和小学校の伊達西小学校への統合により、統廃合がひと段落するので、今後は老朽化した施設・設備等の改修を進め、児童生徒が不自由なく学習できる環境を整備していくことを期待する。

校外安全対策の充実にについては、児童生徒の命を守るために各学校とも交通安全教室、防犯教室を実施した。特に交通安全教室では、警察署だけでなく、交通安全協会やその他の関係機関とも連携して、各学校工夫した安全教室を行うことができた。通学路の安全対策については、今後も地域や関係機関と協力して危険個所の点検していくことが、事故防止にとって大切である。

学校再編等の推進については、有珠小学校が計画通りに伊達西小学校に統合された。令和5年度末に長和小学校が閉校となり、同じく伊達西小学校に統合する予定となっている。地域や保護者の願いや思いを受け止めながら、児童が安心して新しい環境に馴染めるように統合を進めていくことを期待する。

高等学校教育等との連携・支援については、伊達開来高等学校が地域の小中学生も招いた外部の専門家による講習会を実施し、地域のスポーツ・文化活動の活性化

に貢献した。次年度も地域の小中学生にとって魅力ある高等学校となるように、「だて学」を推進し、地域に還元することができる取組の推進に期待する。

(2) 社会教育

①ふるさと意識を育て地域づくりに参画する青少年教育の推進

こころとふるさと意識を育む体験活動の推進については、コロナ禍ではあったが、感染対策をしながら体験学習教室及び市民団体などと連携した青少年事業が実施されたことは、よかった。さらに内容を工夫しながら、新たな参加者の創出につなげることを期待する。また、青少年指導センターの活動も伊達市教護会と連携しながら、街頭指導やキャンプ場、祭典等の巡視を増やし、青少年の非行防止に努めてほしい。

交流活動を通じた地域づくりに参画する人材の育成は、リーダー養成研修・交流活動事業において宮城県柴田町に中学生4名を派遣し、活発な交流ができたことは評価できる。青少年の育成は、地域づくりに必要な人材の育成に繋がることから、今後も事業が継続されることを期待する。

②共に支えあう地域づくりを目指す社会教育の推進

生涯にわたる充実した学習機会の提供については、コロナ禍の影響が残る中ではあったが、市民の多様な学習ニーズに合わせた市民講座や指定管理者による学習教室などを実施し、昨年よりも多数の受講者を確保し、目標値を達成できたことは評価できる。今後もより魅力的な講座を開設するとともに、活性化のための広報活動にも取り組んでほしい。

高齢者が健やかで豊かに学ぶ機会の創出については、長生大学での講義や実技講座の実施回数が倍になったものの、学生数は減少している。学生数の減少を改善するためにも在學生にニーズがある事業内容を聞いて、新たな講座を開設するとともに、長生大学の活動を広く広報等でPRし、学生数の確保に努めてもらいたい。

家庭・地域の教育力の向上においては、令和4年度も放課後子ども教室事業がコロナ禍で中止となった。地域住民が、コミュニティ・スクールや放課後子ども教室等を通して関わることは、地域をあげて子供を育てる意識を高めるうえで重要である。特に学校が閉校になった地域において実施することが必要であると考え。今後は、放課後児童クラブとも連携し、事業を継続することを期待する。

図書館機能の充実については、利用者が選びやすい著者名の見出し等の館内整備をしたほか、読書週間等のイベントや「みんなのオススメ本POPコンテスト」を実施して読書普及の促進を図ったことは、評価できる。入館者数が回復傾向にあるので、今後も利用者のニーズに合わせた図書資料の整備や読書の普及活動を強化し、さらなる図書館機能の充実を図ってほしい。また、利用者が滞在しやすい環境の整備も推進し、コロナ前の利用者数となることを期待する。

(3) 歴史・文化芸術

①特色ある地域文化の推進

文化芸術活動の振興について、児童・生徒への巡回小劇場事業が再開され、優れた舞台芸術を鑑賞することができた。また、市民に対しても劇団四季ファミリーミュージカルや美術展覧会を開催し、芸術性の高い舞台や展覧会を鑑賞することができた。今後も鑑賞数を目標値に近づけるためにも市民のニーズに応じた舞台鑑賞事業や展示事業を開催することを期待する。

②歴史・文化を活かしたまちづくりの推進

歴史文化資源の活用については、「だて歴史文化ミュージアム」において特別展、企画展を開催することで入館者数は増えたが、コロナ禍の影響が残っていたこともあり、入館者数は微増にとどまった。アンケートの満足度が8割を超えているので、展示内容は魅力あるものであったと評価できる。次年度も展示替えや施設での連動企画の展開により、市の貴重な文化財の保存・活用を続けてほしい。また、市内の小中学校にとっては、伊達の歴史を学ぶ上で貴重な場となっている。今後も歴史文化資源を活用した特別展等を開催し、だて学を推進するための一助となる学習の場を提供してほしい。

文化財の保護と適切な展示保管環境の維持については、新たに国史跡指定を目指す遺跡の測量、発掘調査を行ったとのこと。旧伊達邸庭園についても古地図の複製を展示する等、国史跡指定に向けて努力されている。伊達の新たな文化財を残すためにも引き続き調査を進めてほしい。

(4) スポーツ

①豊かな心身を育むスポーツの振興

スポーツ活動の推進については、各種大会や研修会、講習会が昨年よりも多く開催されるようになり、参加者数も大幅に増えたことでコロナ前の水準に近づいてきた。新たにニュースポーツの大会も開かれているので、今後も年齢や経験にかかわらず、誰もが気軽にスポーツに取り組むことができるように、伊達市スポーツ協会や指定管理者などと連携してスポーツ活動の普及促進に努めることを期待する。また、中学校の部活動の地域移行が始まっているので、指定管理者との連携は不可欠である。各種目に対応した指導力の向上と指導者の育成にも期待する。

スポーツ施設の整備・充実については、新型コロナがだいぶ落ち着いたこともあり利用者の割合が増えた。積極的な情報発信や自主事業の取組により、利用促進が図られたことは評価できる。各施設において、空き時間帯に他のイベントで利用されることは、施設の有効活用としてもよかった。老朽化が進む施設は、修繕、整備が必要になってくるが、閉校する小学校の跡地利用も含め各施設をより多くの市民に有効活用してもらえるように、指定管理者と連携して、市民の健康・体力づくり

の向上に努めてほしい。

1 教育委員会の活動状況

教育委員会会議については、毎月の定例会において、教育に関する様々な案件について、活発な検討・協議を実施し、必要な議決を行っていると考えている。

令和4年度においては、東小学校と伊達開来高等学校の訪問がなされたとのことだが、学校訪問等の機会は、学校の良さや課題を把握する上でも重要な機会となることから、様々な機会を見つけて参観をしたり意見交換等を行ったりしていただきたい。今後もより一層、学校や各施設との連携を図りながら、要望や課題などを適切に把握し、様々な教育活動の効果的な推進に尽力されることを期待する。また、ホームページや広報誌等を活用し、教育委員会の会議の様子や活動等の情報を適切に発信しながら、市民の理解を得られるようにこれからも取組を継続してほしい。

2 「第2次伊達市教育振興基本計画」に基づく管理及び執行状況の評価

(1) 学校教育

① 社会を生き抜く力を育む教育の推進

確かな学力の育成については、毎年実施されている「伊達市学力テスト」は、大変効果的な取組であると認識しているが、課題として、授業内容がよく分かると回答した児童生徒の割合が昨年度より低くなっていることや、全国学力・学習状況調査の正答率との相関性も認められるとのことなので、学力テスト等の結果を基にした各学校における「学力・学習改善プラン」の作成、指導方法の工夫改善等を行うことで、子どもたちの学力の育成や教職員の資質の向上等につながっていくことを期待している。

特別支援教育の充実については、伊達市特別支援教育推進協議会を実施や児童生徒一人一人の現状・ニーズの把握等、必要な施策を実施していると考えている。また、各学校における個別の教育支援計画や指導計画の作成に加え、日常の取組に活用したり、校種間の連携を図り切れ目の無い支援を継続して実施したりすることは重要なことと考える。適切な支援を実施するためにも、早期の段階から保護者に対して特別支援に対する理解を深めることが必要と考える。今後も様々なニーズを捉えながら、適切な施策を実施できるように継続して取り組んでいただきたい。

国際理解教育の推進については、イングリッシュアドベンチャーやイングリッシュキャンプの実施など、互いにコミュニケーションを図る活動が展開されていると考えているので、今後も継続した取組を推進し、外国語を用いたコミュニケーション能力の育成を図れるよう期待している。同時に学年が上がるにつれ、全国との差が広がっている結果であることから、早期段階の指導を手厚くするなどの対応が必要で

はないか工夫改善が望まれる。

情報教育の充実については、1人1台のコンピューター端末の整備配置がなされ、それらを用いた様々な実践が行われていると認識している。これからも、授業での効果的な活用をはじめ、子どもたちの情報活用能力の育成、それらを安全に使用するためのマナーなどネットトラブルの未然防止に向けた指導を継続して取り組んでいただきたい。また、義務教育段階の全ての家庭での端末利用が可能になるよう整備を推進していただきたい。

キャリア教育の充実については、それぞれの状況や将来に向けての希望等を把握しながら、実際に自分の目で見たり、体験したりする取組の充実が大切だと考える。また、座談会等で地域の職業人の生の声を聞くことも有効な活動であると評価する。コロナが5類に移行したとはいえ、医療や福祉の現場では従前同様とはならないため、十分に実施できない取組等もあると思われるが、子どもたちに将来の展望などを考えることができるような様々な工夫を凝らした取組が展開されることを期待している。

環境教育の充実については、環境教育全体計画に基づき、各教科・特別活動・総合的な学習の時間等、環境教育に関する学習が実施されていると考えている。これからも、地域の将来を自らの課題として捉えるとともに、課題解決のために自分たちができることを考えるなどの教育活動を展開できるように期待している。

安全・防災教育の充実については、市内全ての学校において実施されていることから、防災訓練等が計画的に実践されていると考えるので、引き続き警察や地域の関係機関・団体等と連携するなど、継続した取組を推進していただきたい。

②豊かな心を育む教育の推進

道徳教育の充実については、「考え、議論する道徳」の授業改善や校内研修の充実により、道徳性が養われるような教育活動が行われていると考えており、全体で自己肯定感が高まっていること、自我の確立に向かう中学生年代がさらに高いことは評価できる。規範意識も年代が上がるにつれ高いことは社会人としての自立に向けて成果であると捉える。今後とも各家庭とも連携を図りながら、様々な場面を通して子どもたちに自分たちのよさや頑張り、また、成長している部分を実感させ、自信をもって活動に取り組めるように継続した指導を期待している。

生徒指導・教育相談の充実については、教員だけでは解決できない問題も多くなっている状況であることから、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用するとともに、教育相談や生徒指導等の校内体制を充実させ、問題の早期発見、早期対応をお願いしたい。

③健やかな体を育む教育の推進

体力・運動の能力の向上については、一昨年度までは、コロナ禍で運動機会が減

少し体力の低下傾向が心配されていたが、昨年度は感染対策を講じながら工夫して運動機会を設け、コロナ禍前に近づいたように感じている。調査等の数値を見ても、その状況が反映され、体力の低下傾向を持ち直してきていると感じられる。学校等での取組でも、運動会等の行事の実施や日々の体力増進に向けての様々な取組が継続的に行われている。成果や課題等を整理しながら、健康・体力の向上に向けた様々な取組の実践が図られるようお願いしたい。

食育・健康教育の推進については、地場産食材等を取り入れたメニューもあり、伊達市のよさを子どもたちに伝える有効な手段として活用されている。食材や燃料等の高騰の状況があり、給食の質を維持したまま更に地場産食材等を利用した献立づくりは難しい状況かと思うが、今後も献立の工夫をしながら、子どもたちへの食の指導を充実させていただきたい。また、栄養教諭による栄養指導も、子どもたちの健やかな身体を育成していく上で大きく貢献していると考え。引き続き、食を通じた健康に関する教育を推進させていただきたい。

がん教育の実施に対しても、病気の発症を防ぐための生活習慣の改善や予防の重要性が伝えられている。義務教育の段階から、がんに対する知識の普及に努め、自ら予防に努めることができる生活習慣が身に付けられるように、引き続き実践を図っていただきたい。

④地域とともにある学校づくりの推進

保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加することは、地域とともにある学校づくりには欠かせないものとする。また、学校運営協議会の取組を充実させるため、伊達市学校運営協議会委員研修会の開催、さらに、地域の素材を生かした教育活動の展開に期待する。

ふるさと創生教育については、市内の小学校の統廃合が進められている中でも、統合校において、それぞれの地域の特色などを引継ぎ、更なる充実・発展が図られるような学校づくりが進められていくことを願う。加えて、「だて学」の実施により、伊達市の伝統、文化等について学ぶとともに、将来的に地域のために行動できる児童生徒を育成できるよう、子どもたちへの取組の充実を図っていただきたい。

異校種間連携・接続推進、幼児教育の充実については、学校間の指導方法に関わる情報交換や教育活動上での連携などは重要と考えており、コロナ禍で計画通りいかなかったこともあったようだが、今後も交流を継続し校区の子どもたちの育ちを一体感を持って支えていただきたい。

教職員の資質・能力の向上については、各教科における1人1台端末を活用した学びに係る研修を実施し、養護教諭を対象とした研修会についても、受講者のニーズに応じたテーマが選定され参加率の向上に繋がっている。教職員の資質・能力の向上を一層図るため、これからも実りある研修等を実施していただきたい。

⑤信頼される教育環境の整備

学校施設・設備の充実に関しては、伊達市学校施設長寿命化計画に基づき、伊達小校舎の改築等、計画的な取組が行われている。子どもたちの学びの場である学校の教育環境の充実は、学習活動を進める上で大変重要なことであることから、施設の状態を把握や学校現場の声を聞き、効率的かつ計画的な実施をお願いしたい。

校外安全対策の充実については、警察や関係機関と連携した訓練や指導等が行なわれ、児童生徒の交通安全意識や防犯意識の向上が図られていることから、継続した取組をお願いするとともに、特に校区の危険個所に係る協議と対策については保護者や地域と連携し確実な実施をお願いしたい。

学校再編等の推進については、統合校においても子どもたちが資質や能力をさらに伸ばしていけるよう、保護者や地域の意見等に耳を傾けながら、必要な施策が実行できるように取組を推進していただきたい。また、統合後においても子どもたちが環境の変化に適応できるよう手厚い支援をお願いしたい。

高等学校の連携接続については、子どもたちや地域にとって魅力ある高等学校が構築されるように、教育環境の充実等が図られるような支援や連携を期待している。

(2) 社会教育

①ふるさと意識を育て地域づくりに参画する青少年教育の推進

こころとふるさと意識を育む体験活動の推進については、青少年教育事業においてコロナ禍前と同等の参加人数だったとのことだが、新たな参加者の創出に向けては、幼児期の保護者の関心やニーズに視点を当てるなど、子育て早期から事業に関心を持てるよう方法等を模索することが必要ではないかと考える。街頭指導については、昨今の事件や事故等を鑑み、さらに強化を図っていただきたい。

交流活動を通じた地域づくりに参画する人材の育成については、歴史友好都市への交流派遣が実施できたようだが、参加者の確保等に向けては課題があるとの評価であることから、解決に向けて取り組んでいただきたい。

②共に支えあう地域づくりを目指す社会教育の推進

生涯にわたる充実した学習機会の提供については、市民講座をはじめとして、民間企業と連携しながら市民のニーズを取り入れた企画・運営が成されていると考える。今後も市民のニーズ等を把握しながら、より魅力的な講座の開催が実行できるよう期待している。

高齢者が健やかで豊かに学ぶ機会の創出については、長生大学での学習が、伊達及び有珠の各会場で21回、学習外活動が9回開催されている。長生大学に目的感を持ち、参加しながら、充実した学びにつなげている方も多数いると思われる。学生数は減少傾向にあるが、広報誌等を活用しながら活動をPRし、生涯を通じた豊かな学びの一助になれるように引き続き取組を推進していただきたい。

家庭・地域の教育力の向上については、放課後児童クラブの自主学習の時間の活用や青少年教育事業の枠組みの活用等が対応方針にも記載されているが、地域住民が関わり合いながら、子どもたちを育てていけるような取組を進めていただければと思う。

図書館機能の充実については、利用者が選びやすいように著者名の見出し等の館内整備を実施し、より良い読書環境の構築に向けて実践が図られていると感じる。年間の利用者数も1日の平均来館者数も増加している等の結果であることから、さらなる図書館機能の充実・発展を図るために、利用者のニーズを把握しながら、図書資料の充実や読書の普及活動に継続して取り組むと同時に利用者の滞在しやすい環境の整備を推進していただきたい。

(3) 歴史・文化芸術

① 特色ある地域文化の推進

文化芸術活動の振興については、様々な機会を通し芸術文化等にふれることのできる機会を確保することは、生活に潤いを与え豊かにする上でも大切なことだと考える。コロナ禍で中止していた事業が再開され、子どもたちに舞台鑑賞機会の提供を図る巡回小劇場の取組も芸術的な素地を養う上で貴重な体験になったと思われる。今後も市民のニーズを把握しながら、文化・芸術活動に直接ふれられる機会の確保を図っていただきたい。

② 歴史文化を活かしたまちづくりの推進

歴史文化資源の活用については、だて歴史文化ミュージアムにおいて、歴史文化資源を活用した特別展等6企画を実施することを通して、市民や観光客等にその価値を伝え、文化資源の保護につなげる施策が行われている。臨時閉館日がなく入館者数が微増し、アンケートによる満足度は昨年度比微減ではあったが、8割を越える高い割合を維持している。引き続き、指定管理者との連携を図りながら、魅力ある企画の実行や展示方法の見直し等を進めていただきたい。

文化財の保護と適切な展示保管環境の維持については、令和3年度、北黄金貝塚を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録され、注目が集まっていると考えるが、子どもたちの貴重な学びの場として活用するとともに、新たな文化財の指定のための調査も進めていただきたい。

(4) スポーツ

① 豊かな心身を育むスポーツの振興

スポーツ活動の促進については、ニュースポーツの大会が新たに実施されるなど、年齢や経験に関わらず、健康と生きがいづくりのために誰もが気軽にスポーツに取り組めるような取組がなされていると考える。今後においても、伊達市スポーツ協

会等の関係団体と連携を図り、スポーツ機会の提供をするとともに、青少年や地域のスポーツ活動の普及促進に取り組んでいただきたい。

スポーツ施設の整備・充実については、新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着いてきたことや積極的な情報発信により、利用者は増加に転じている。今後においても、より多くの市民に有効活用してもらうために、指定管理者と連携し、施設や健康・体力づくりに関する情報発信及び健康意識の啓発を充実させるなど、取組を進めていただきたい。

小林 浩 路

1 教育委員会の活動状況

教育委員会会議については、定例会において、各委員の高い関心と問題意識のもと教育に関する様々な案件について検討し、議決されているものとする。定例会の開催予定や傍聴の案内、会議録等については広報紙やホームページに掲載するなどして市民に公開している。

教育委員会会議の開催に合わせた市内の小学校と道立学校の訪問は実施された。新型コロナウイルス感染症の影響により、市内小中学校の行事視察は実施されなかったが、学校が抱えている課題の把握や各教育施設の状況把握のためにも学校訪問と各教育施設の視察は、今後とも継続して実施していただきたい。また、今日的な課題であるヤング・ケアラーの実態調査や、市内の各学校においては、オンライン学習の取組が進んでいることから、対面による学校訪問や各教育施設の視察とともに、オンラインによる教育委員の各学校訪問や各教育施設との情報交換についても検討していただきたい。

2 「第2次伊達市教育振興基本計画」に基づく管理及び執行状況の評価

(1) 学校教育

①社会を生き抜く力を育む教育の推進

確かな学力の育成については、「伊達市学力テスト」の実施では、児童生徒の学力や学習状況を把握するとともに、「学力・学習改善プラン」の見直しや数値目標を設定し、児童生徒の学力向上や指導方法の工夫・改善にも大変有効である。また、教育実践交流・研修会では教育実践の積み上げに基づく授業改善の活性化につなげていってほしい。

特別支援教育の充実については、すべての学校において、通級指導教室及び特別支援学級に在籍する児童生徒の個別の教育支援計画や個別の指導計画が作成されている。また、就学先や進学先等への引継ぎにも活用されており、子どもの成長段階や状況等の変化に応じた合理的配慮について、個別の教育支援計画や個別の指導計画を検討・修正しながら切れ目のない支援に活用され、子どもや保護者の教育的ニーズに応じた教育支援が期待される。各校には特別支援教育支援員及び介護員が配置されており、配慮を要する児童生徒に手厚い支援がなされている。今後、更に支援を必要とする児童生徒が増えることが予想されるので、支援員・介護員の増員が期待される。

国際理解教育の推進については、伊達市学力テストにおける外国語の伊達市全体の平均点が全国平均を下回っており、どのような内容をどの程度まで指導するかを

検討し、より具体的な「学力・学習改善プラン」を作成し、継続して指導していく必要がある。これまでのALT等のネイティブスピーカーとの交流活動の実践を生かし、子どもたちが外国の文化や習慣に慣れ親しみ、外国語を用いたコミュニケーション能力の向上が期待されるとともに、コロナ禍の影響で中止になっていたイングリッシュキャンプやイングリッシュアドベンチャーが実施されたことから、その効果にも期待したい。また、小学校中学年の外国語活動、高学年の外国語科が本格導入されて3年目となり、外国語の専科教諭が市内全小学校に配置されることを期待する。

情報教育の充実については、児童生徒一人一台の端末が配置されICTの環境整備が急速に進んでいる。その反面、情報モラルの低下やネットトラブルが心配される。情報通信ネットワークなどの情報活用能力や情報科学の理解とともに、情報モラルや情報機器活用のマナーなどを身に付け、ネットトラブルの未然防止に向けた指導が継続して実施されるよう期待する。

キャリア教育の充実については、児童生徒の発達段階に応じてキャリア形成の方向性と将来の生き方や希望進路の実現、職業情報を収集・整理し、主体的に学習活動に取り組めるよう、学校のキャリア教育全体計画に基づいた実践化が期待される。そのため、伊達地区ネットワーク会議への参加により、コロナ禍の影響で実施できなかった職場見学や職業体験を通して児童生徒のキャリアプランニング能力の育成が図られるよう、地域との連携・協力が重要と考える。

環境教育の充実については、すべての学校において、各教科、特別活動、総合的な学習の時間等、学校の教育活動全体を通して環境教育に関する学習が継続して実践されており、高い評価となっている。生命を尊重し、自然環境の保全に寄与することは、自らの課題とともに、カーボンニュートラルをはじめ地球規模の問題として、児童生徒の発達段階に応じた指導のもとで、自らの課題としてとらえ、課題解決に向けて自分たちにできることを考えて行動できる子どもの育成が期待される。

安全・防災教育の充実については、日常から有珠山の噴火や津波を含めた自然災害等に備え、市が実施している防災総合訓練に地域住民と一体となって参加したり、警察や消防署等の協力を得て、実践的な対策や防犯教室、交通安全教室等を学校教育の中でとらえることは、大変、重要なことと考える。

②豊かな心を育む教育の推進

道徳教育の充実については、「考え、議論する道徳」の授業改善や指導に生きる評価の在り方に係る校内研修の充実を図るとともに、自己を深く見つめ、人間としての在り方や生き方の自覚を深める中で、より良く生きるための道徳性が養われるよう、道徳教育全体の工夫・改善が図られることが期待される。

生徒指導・教育相談の充実については、教員だけでは解決できないことが多くなってきており、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置を継続

するとともに、いじめや不登校、ネットトラブル、ネグレクトなどの未然防止・早期発見・早期対応に向けた校内体制の充実が重要と考える。更には、ヤングケアラーの調査を行うなどして、様々な児童生徒の置かれている状況の把握や保護者が抱えている複雑な悩みに即して、学校と家庭、市教委、市の関係部局、及び警察、児童相談所、医療機関などと連携した対応が期待される。

③健やかな体を育む教育の推進

体力・運動能力の向上については、すべての学校において伊達市体力テストを実施し、児童生徒の実態に応じた「体力向上プラン」を作成して指導している。引き続き、縄跳びの取組を継続するとともに、「体力向上プラン」が持久力も含めた個々の体力・運動能力の向上を目的とした指導の工夫・改善に活用されることが期待される。

食育・健康教育の推進については、安心安全な給食の提供と栄養バランスのとれた給食内容の充実を図り、新たな地場産食材を取り入れたメニューが期待される。物価高騰の影響が食材費にも及んでいるようだが、給食費増額の前に、給食内容の工夫や栄養価の維持、毎月送付されているランチメールや献立メモ等による家庭への食育に関する啓発にも努めていただきたい。更には、栄養教諭派遣指導を継続的に実施することによって、食育指導や給食指導の充実が期待される。

がん教育や薬物乱用防止教室、性に関する指導の実施については、各学校の教育計画に基づき、保健体育や学級活動の学習として、また外部講師を招聘して実施される講座は児童生徒の将来にとっても、大変重要なことであると考えられる。

④地域とともにある学校づくりの推進

地域総がかりの教育の推進については、すべての学校で、保護者や地域住民が様々な活動に参加している。地域住民や関係者が学校運営協議会に参加して地域とともにある学校づくりが進められていくことを期待する。

ふるさと創生教育の推進については、地域の専門的な知識・技能を有する人材や地域の施設、副読本等を活用することによって、小学校から中学校、市内高等学校も含め、すべての学校でふるさと創生教育「だて学」が、発達段階に応じた学習プログラムに基づいて実施されることが期待される。

異校種間連携・接続の推進については、市内各幼稚園保育所、小中高において、小学校体験入学や幼稚園・保育所交流、中学校区を基本とした児童・生徒の交流、異校種間の教育課程の接続や児童・生徒に関する引継ぎ、指導方法に関わる研修会の実施など、様々な方法によって円滑な接続が実施されている。また、市内高等学校と小・中学校との教育活動上の連携、指導方法等に関わる交流や情報交換が推進されており、今後とも、効果的な接続として期待される。

幼児教育の充実については、コロナ禍の影響で計画通りには実施できなかった学

校もあったようだが、就学前の幼児がスムーズに小学校や義務教育学校前期課程の生活を送れるように、市内の幼稚園、認定こども園、保育所の年長児が交流する「アプローチカリキュラム」を実施している。また、小学校や義務教育学校前期課程入学後も学校生活に適応していけるよう、生活科を中心に学科的・関連的な指導や弾力的な時間割を設定するなど、指導方法の工夫や指導計画を見直しながら実施する「スタートカリキュラム」は、子どもたちや保護者の不安解消と負担解消にとって効果的な取組として、今後も、幼保・小中の連携体制が構築され、接続の課題を把握し、工夫・改善して継続されていくことが期待される。

教職員の資質・能力の向上については、伊達市教育実践交流・研修会が各教科における一人一台端末を活用した学びに係る研修内容で、各校の取組に共有できる場として定着しており、高い参加率を維持している。また、養護教諭、栄養教諭、事務職員等の研修会では、専門分野の研修内容とともに、事前に研修テーマを設定し、テーマを把握し課題を共有化して研修会に臨むことは参加者の資質向上にもつながるものとして大変有意義なことと考える。

⑤信頼される教育環境の整備

学校施設・設備の充実については、国の補正予算を積極的に活用し、伊達小の校舎改築や伊達中の暖房施設の改修、更には、長和小と統合する伊達西小の改修工事などが計画的に整備されている。今後、伊達市学校施設長寿命化計画に基づき、学校現場の現状を十分把握し、学校施設の将来的な動向や学校施設が計画的に整備されていくことが期待される。

校外安全対策の充実については、警察などの関係機関と連携した交通安全教室や防犯教室を実施するなど、児童生徒の交通安全意識や防犯意識の向上が図られている。また、通学路の安全対策については、関係機関と連携して行っている校区の危険箇所の合同点検、登下校安全対策推進会議等の開催、啓発看板の設置などの対策が取られている。今後とも、校区の危険箇所対策の検討と通学路の安全確保の徹底が期待される。

学校再編等の推進については、統合予定校の子どもたちが自分の力を発揮し、学習活動や学校生活を生き生きと送れるよう不安や負担を取り除き、保護者や地域の意見等に寄り添いながら、円滑な統合の実現に努めていただきたい。

高等学校教育等との連携・支援については、子どもたちや地域にとって魅力ある高等学校として構築されるよう、今後とも支援していただきたい。

(2) 社会教育

①ふるさと意識を育て地域づくりに参画する青少年教育の推進

こころとふるさと意識を育む体験活動の推進については、子ども同士や親子、異世代等がふれあう貴重な機会であり、青少年の健やかな成長と社会性を養う上で大

変重要であると考え。コロナ禍の影響で減少した参加者が 281 人までに増加していることは望ましい傾向であり、引き続き、協力団体と連携して、充実した事業内容の工夫とともに、新たな参加者の発掘に向けた取組が期待される。また、青少年指導センター指導員と実施している巡回指導、夏季海水浴場キャンプ場の巡回、広域列車添乗補導などは、大変、重要なことであり、継続して巡回指導等に努めていただきたい。

交流活動を通じた地域づくりに参画する人材の育成については、姉妹歴史友好都市シニアリーダー研修交流事業に中学生 4 名とその他 1 名の合計 5 名が派遣され、リーダー養成とともに、これからの地域づくりに欠かせない人材育成の要素を担っている。少子化に伴う青少年団体の減少が懸念される中で、これまでの伊達市成人式は、令和 4 年度から「二十歳を祝う会」に事業名が変更され、青年団体「フェバリットクラブ」の協力を得て実行委員会を組織し、自らが企画立案・運営するなど、地域づくりに必要な人材育成事業として大いに期待される。

②共に支えあう地域づくりを目指す社会教育の推進

生涯にわたる充実した学習機会の提供については、市民の学習ニーズに対応した多種多様な講座や講演会を企画し、講座の時間帯や曜日、シリーズ等を検討して開催され、受講者も順調に増加している。また、周知方法を工夫したり、民間企業や指定管理者等と連携し、人気のある講座を連続して実施するなど、柔軟な事業実施を行っている。市民総合文化祭や市民サークルまつり事業では、広報紙やホームページを活用して広報活動を強化したり、男女共同参画教養講座では多くの参加者があり、女性リーダー養成研修では 5 名がオンライン開催に参加するなど、今後、より多くの市民が参加しやすい講座の開設や学習活動の展開が期待される。

高齢者が健やかで豊かに学ぶ機会の創出については、近年、高齢者の就労が増加傾向にあり、長生大学への入学者数が減少し、転居、疾病、死亡などによる在学生の減少傾向も続いている。学生数確保のためには、広報紙等による積極的な PR 活動と在学生の学習ニーズを把握し、講義内容等の充実を図っていくことが重要と考える。たとえ、学生数の減少傾向が続いても、高齢者が生涯にわたって学び続けていけるよう、長生大学が継続して運営されていくことを期待する。

家庭・地域の教育力の向上については、放課後児童クラブとの関連から、「学習の日」「遊び・交流・体験の日」の事業推進方策や取組方法、更には、ボランティア人材の確保も含めて、十分検討していくことが必要である。

図書館機能の充実については、利用者が本を選びやすい著者名見出しや、表紙を見せる配架など、館内展示の整備に努めている。また、「本の森」、「司書のお薦めコーナー」、小学生から高校生までを対象とし学校と連携した「みんなのおススメ本 P O P コンテスト」、読書週間に合わせたイベントを実施するなど、読書活動の普及促進にも努めている。今後とも、利用者のニーズに合わせた図書資料の整備や利用者

が滞在しやすい環境の整備が期待される。特に、懸案事項である伊達市立図書館の改築については、早期着工が待たれる。

(3) 歴史・文化芸術

①特色ある地域文化の推進

文化芸術活動の振興については、市民に対して芸術性の高い舞台鑑賞機会の提供として、伊達市・室蘭市・登別市の3市で行っている西いぶり定住自立圏文化事業や、だて歴史文化ミュージアムを活用した美術展覧会等を実施している。また、市内全児童生徒に優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供する巡回小劇場は、引き続き、財政面での支援が必要と考える。

②歴史文化を活かしたまちづくりの推進

歴史文化資源の活用については、だて歴史文化ミュージアムでは、歴史文化資源を活用した特別展を開催することによって市民や観光客等にその価値を伝えたり、文化資源の保護につなげていく施策がとられている。有料入館者数は微増ではあるが、アンケート調査では80.6%と微減だが高い満足度を維持している。引き続き、指定管理者との連携強化に努め、過去に人気のあった企画の再実施やリクエストの多い分野の展示を企画したり、来館者が少なかった展示内容の見直しを図って、魅力ある展示の企画運営が期待される。また、だて歴史文化ミュージアムは市内の子どもたちにとって集いの場、学びの場になることを期待する。

文化財の保護と適切な展示保管環境の維持については、世界文化遺産に登録された史跡北黄金貝塚の景観保全に努めるとともに、有珠モシリ遺跡については、測量調査・発掘調査を実施し、国史跡指定への働きかけが必要である。また、史跡や展示施設の説明ガイドやヤングボランティアの組織化、学芸員等の専門職員の増員が必要であると考えられる。

(4) スポーツ

①豊かな心身を育むスポーツの振興

スポーツ活動の促進については、年齢や経験に関わらず、健康と生きがいがづくりへ向けて、誰もが気軽にスポーツに取り組むことができるよう、各種目の初心者教室や地域間・世代間交流に向けたスポーツ大会の開催、更には、ニュースポーツの普及促進が図られている。今後、青少年期の適切なスポーツ指導や個々の心身の発達に応じた適切な指導が行えるスポーツ指導者の養成が必要であると考えられる。

スポーツ施設の整備・充実については、積極的に施設の利用が図られ、市民の健康・体力づくりの促進に寄与している。また、空き時間帯にスポーツ以外の団体利用や用途に応じた有効活用が図られている。今後、指定管理者等と連携して、施設の老朽化への対応や修繕、備品等の補充など、更新計画の作成に取り組む必要があ

る。そのためにも、十分な予算付けを行って、施設の維持・管理の推進に期待する。